



令和4年度学校だより 甲府市立南西中学校

銀杏 (いちょう) 第2号 令和4年4月25日(月)発行

●教育指標 「日に 新たに」 ●学校教育目標「たくましい心と体もち 豊かに学び合う生徒の育成」

文責：校長 寺田 是

入学式と最近の学校生活の様子をお伝えします

入学式の様子

4月9日に新入生75名とその保護者の方々に参加する中で、入学式が行われました。感染症対策のため、例年なら行われる在校生による歓迎合唱や来賓の方々の出席は叶いませんでしたが、凛とした雰囲気の中、新入生の門出にふさわしい入学式となりました。言うまでもなく、入学式の主役は新入生一人一人です。担任の先生に名前を呼ばれ、「はい」と返事し、背筋を伸ばして起立する一人一人の姿から、「よし、やるぞ」という意気込みが伝わってきました。

その後、新入生代表の平川真菜さんから誓いの言葉が述べられました。以下に、その全文を載せます。

誓いの言葉

あたたかな春の訪れとともに私たちは甲府市立南西中学校の入学式を迎えることができました。コロナ禍にもかかわらず本日はこのように立派な入学式を行っていただき本当にありがとうございます。

いよいよ待ちに待った中学校生活が始まります。今までとは違った生活に不安な気持ちを抱く反面、どんな事が待っているのだろう、どんな友達ができるのだろうと期待と希望に心を弾ませています。先生方や先輩方に支えていただきながら南西中学校の生徒としての自覚と誇りを持ち、充実した中学校生活を過ごしていきたいと思えます。そのために、次のことをここに誓います。

- 一、何事にも自分でよく考え行動します。
- 一、中学校での学習や部活動など全ての活動に全力で取り組みます。
- 一、多くの友達をつくり中学校生活を実りのあるものにしていきます。

以上のことを中学校生活の目標とし、明るく元気に過ごして行くことを皆様の前で宣言し、誓いの言葉とさせていただきます。

令和4年4月9日 新入生代表 平川真菜

私は、壇上で、この誓いの言葉を聞きました。平川さんと、その後ろに立っている新入生一人一人の顔を見ながら、全員の言葉として受け止めさせてもらいました。平川さんの言葉にもあるように、「(中学校生活への)希望と期待に心を弾ませ」、「充実した中学校生活を過ごしていきたい」と考えている新入生の成長をしっかり支えていきたいと思っています。

私からは「新入生を迎える言葉」として、以下を伝えさせていただきました。

- ① 中学生の時代は、大人へと向かう「自立」の時期である
- ② 「自立」のために、大切なのは、一つは、「挑戦する」こと……サッカーでは、シュートしたもののゴールに至らなかった仲間に「Nice Try」という言葉をかける。失敗を恐れず挑戦したことを讃える言葉であり、皆さんもそういう声をかけられるようになってほしい。
- ③ もう一つ大切なのは、「違いを認める」こと……違いがあるのが当たり前であり、違う者同士が関わり合うからこそ、自分も成長できるし、いろいろな人と交わっていく力が身につく。
- ④ 保護者の方とは、子どもが「自立」していく過程を共に支えるパートナーとして、協力していきたい。

学校全体の最近の様子

新年度から、2週間が経過し、仮の時間割による授業や部活動見学も始まっています。部活動については、18日(月)に生徒会による部紹介があり、各部の2・3年生が、工夫を凝らした発表を行いました。新入生の部活見学も始まり、2・3年生も張り切って部活動を行っている姿が見られます。

授業については、先生たちからは、集中して話を聞いたり、意欲的に発言しているとの話があり、全体としては、良いスタートが切れたと感じています。私も、時間を見つけて、校舎内を巡回していますが、どの学年、どの学級も、落ち着いて授業を受ける姿が見られます。また、私が感心したのは、登校後の10分間の「朝読書」の時間です。全学年、全学級が、担任の先生も一緒になって、静かに読書をしています。読書は、自分が直接体験できないことを追体験する機会ですし、さまざまな考え方に触れる機会にもなります。そして、1日のスタートを静かな雰囲気の中で始められることは生活リズムをつくる上でも良いことだと思っています。1日10分×週5日=50分の読書ですが一年間積み重なると、膨大な時間になります。朝読書の時間がきっかけとなって、「中学校時代に、本を読む習慣がついた、本を読む楽しさを体験した」と言えるようになると素晴らしいなと思いました。



一年生の廊下に貼られた、一学年所属の教職員による歓迎の掲示物(Welcome message)です。一つ一つの花には、一人一人の生徒の名前が、蝶々には各先生からのメッセージが書かれています。